

北の国から'98 時代から『タイムスリップ!?!』

【働く純】

語「あの後、シュウの家族の中で何が語られ何が起こったのか、暗い予感がぼくを包んでいた。ゴミ収集というぼくの職業、シュウの実家の人々はそれを、果たしてどのように受けとめたのだろうか。だけど。この歳月にこの職業の中でぼくは何度か世間の人から小さな差別のようなものを感じ、傷つきそうして強くなっていったんだ」

【夕暮れの町】

仕事を終えて歩道橋を歩く純。

語「ぼくは自分の仕事に対して、誇りをもちつつあったように思う。だから」

後ろを振り返る純。

語「そうだ。正吉がシンディとデートする日だと思い出したので、アパートに戻らず富良野の街を歩くことにしたわけで」

【北の国から資料館の看板】

語「街を歩くと大きな倉庫を見つけたんだ。ここはなんだ?と思って
いると、そこには北の国から資料館という看板がかかっており…」

語「なんだか不思議な懐かしい気持ちになり、ぼくは中に入ること

に決めた」

【北の国から資料館受付】

係員「いらっしゃいませ」

純「大人！枚でお願いします」

お金を払う純

係員「えっ！もしかして??」

驚く係員

館内に入る純

もう！度、純を見る係員

係員「えーっ!？」

【北の国から資料館館内】

驚く純

語「中に入ると僕や螢が子どもの頃に着た服や父さんに買ってもらった靴が飾ってあり！父さんからもらった泥のついた一万円札、れいちゃんからもらったウォークマンや尾崎のカセットテープもあったわけで！」

さらに驚き、大きな声をあげる純

純「えーっ!!草太兄ちゃん??草太兄ちゃんの遺影が!!」

純「それからの 2 時間は意識はあった。意識はあったけど、何とも変な夢をみているような 2 時間だった。」

【アパートの部屋】

正吉「純!純!どうしたんだ!大丈夫か?」

純「ん…?なに?」

正吉「だいぶうなされてたぞ」

純「夢だったのか…??」

※北の国から'98 時代。純が歩道橋を歩くシーンでは実際に北の国から資料館が映像に映っています。